



銅鐸の鋳型 石型

姫路市名古山遺跡 出土

姫路市今宿丁田遺跡 出土



神戸市立博物館
総合案内 1996年より



(画像①) 銅鐸の鋳型
名古山遺跡 今宿丁田遺跡

播磨の地は古くより、
技術集団が渡来し、製鉄
業・鍛冶業・鋳造業が根



■67

「姫路のくさりづくり 1」

画像はカラーと
交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

づいていました。名古山
(なごやま) 遺跡(紀元
前1-2世紀)と今宿丁
田遺跡より銅鐸(どつた
く)の鋳型(いがた)Ⅱ
画像①Ⅱや鉄のかげらが
出土しています。市之郷
遺跡からは弥生時代、古
墳時代、中世の集落跡が
見つかり、『播磨国風土
記』百済系の渡来人の伝
承を裏付ける甕(こしき)
が出土しています。それ
らの渡来技術は野鍛冶
(農具の修理を主とする
鍛冶屋)や釘鍛冶として、
この地に鍛冶屋(かじや)
の火を燃やし続けていま
した。

弊社の南西500mほ
どの国道250号線沿い
で2002年に『中島南
通り遺跡』が発見されま
した。毎日新聞の現地説
明会案内をみて、事務所
に電話しました。「記事の
鉄片はどこから出土しま
したか?何に使われてい
ましたか?」。しかし、緊
急調査のため詳しくは判
明していないとの事でし
た。とりあえず現地説明
会に参加しました。遺跡
は室町時代の漁村で青磁
や備前焼の土器片と共に
大きな陶器の漁具用の錘
(おもり)が出土しまし
た。数個の鉄片(用途不
明)とふいごの羽口Ⅱ画
像②Ⅱから、鍛冶屋がこ



(画像②) 中島南通り遺跡
ふいごの羽口

日付を参照)の下請け
業者として瀬川製鎖所を
創業、鎖製造の仕事をは
じめました。第二次世界大
戦の影響で、大正3年(1
914年)から鎖の需要
が急増し、本社工場だけ
ではとうてい間に合わない
くなり、同年出身地の近
くに木場工場(姫路市木
場)をつくりました。野
鍛冶など鍛冶技術を持っ
た人達がこの当時の新商
品、くさりの製造に努力

し、短期間で一人前の職
人に成長、木場工場は業
績を伸ばしましたが大戦
の終了、大正7年(19
18年)と共に特需が終
わり、木場工場は閉鎖す
ることになりました。木
場工場で働いた職長クラ
スの人々熊谷某、堀江某、
北村某は瀬川製鎖所の支
援を受けながら、各自独
立をしました。その結果、
製造する業者が順次増
え、製造する鎖の種類も
多様化Ⅱ画像③Ⅱして、
姫路は鎖の産地になった
のです。



(画像③) 鍛接鎖 各種

昭和30年後半
から、直径の太
いアンカーチェ
ーンを中心に、
新しい作り方
(フラッシュパ
ット溶接)に変
更されていきま
した。従来の製
法、鍛接と異な
り機械で作るく
さは品質が向
上しました。また、作れ
るくさりの量が増え、日
本一の産地になり、昭和
55年ころには55社におよ
ぶ鎖製造業者が立地し、
その生産高は全国の約70
%を占めていました。現
在は船舶用アンカーチェ
ーンなど外国製の商品が
増加し、往時の勢いは陰
ついています。しかし、パ
イクや自動車の盗難防止
チェーン、風力発電フィ
用の大型チェーンなど新
しい商品を開発し需要を
創造している元気な企業
も見られます。